

# 「利尻しまじゅうエコミュージアム」に向けたこれまでの取組み

2019.8.23

利尻富士町産業振興課

## これまでの流れ

---

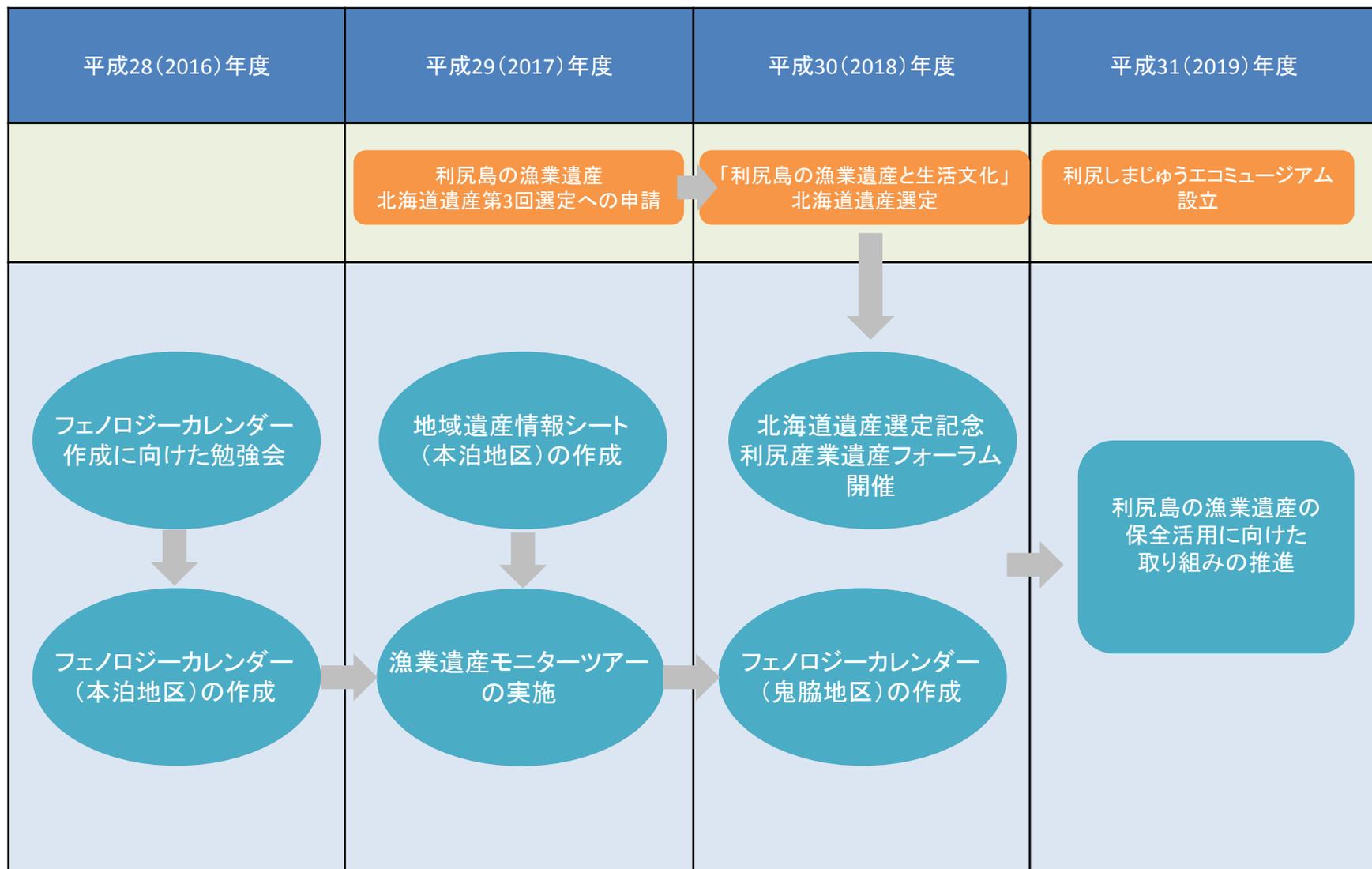
○平成27年～30年度にかけて、利尻富士町(利尻島)の自然・歴史・文化等様々な分野における価値を持つ地域遺産(利尻遺産)を明確化し、それらをもとにした地域のブランディング、観光への活用、およびそれらを動かすマネジメントの仕組みづくり等を目指すため調査等の事業を行ってきました。

○そうした調査等も踏まえ、平成29年12月に第3回募集が開始された北海道遺産に申請を行い、平成30年11月1日に「利尻島の漁業遺産群と生活文化～海の道がつくりあげたヒトとモノの交流史」(利尻島)として、北海道遺産として選定されました。

○北海道遺産選定も契機としてこれまでの取組みをふまえ、モデル地区で実施した取組みを他にも拡大・実践していくために、地域が主体となり、マネジメントを行える仕組みづくりが必要不可欠と考え、利尻島全体として漁業遺産を保全・活用していくための推進組織として利尻町・利尻富士町が連携して「利尻しまじゅうエコミュージアム」を平成31年4月に設立しました。

○今後、利尻島内の漁業遺産に関する案内板の設置やパネル展示、勉強会等を通じて、利尻島が培ってきた遺産を次世代に伝えるための取組みを行っていきます。

# これまでに実施した取組み





# 地域遺産情報シート（本泊地区）の作成

観光ガイドプログラム等での活用を視野に入れて、本泊地区にあるいくつかの地域遺産の情報をまとめた「利尻遺産情報シート(本泊地区)」を作成しました。

「利尻遺産」情報収集シート	
記入者	
調査日	
調査場所	
GPSデータ	
遺産の名称	
概要	
写真ポイント	

情報収集シート(現場でのメモ等に活用)



情報収集シート  
を使って各遺産  
に関する情報を  
収集、情報シ  
ートにまとめていく



情報シート(完成版:ファイリングし、適宜ガイド、観光プログラムの検討等に活用)



情報シートの例

# モニターツアーの実施

平成29年9/27～9/30にかけて行われた利尻富士町モニターツアー「夢の浮島利尻島 大人の社会科見学ツアー」の中で本泊地区の漁業遺産を見学箇所を含み、地元ガイドによる解説を行いました。



モニターツアーの様子

# ニシン漁再現イラストの作成

本泊地区で実施されたモニターツアーの結果に基づき、今後のガイド等で活用可能なニシン漁のイラスト(再現)制作を行いました。現存しているもののみでは想像することが難しく、また、その場での写真等が現存していないため、ニシン漁が行われていた当時の作業の様子などを現在の風景と照らし合わせて理解できるように、カラーのイラストを採用した。イラストは今後案内板やパンフレット等の制作の際に活用する予定です。



<現在の本泊地区(釜場周辺)>

釜場、袋溜、元標など、往時のニシン漁を伝える貴重なものが残っているが、どのように使われていたかなどは説明のみでは理解しにくい。



<現在の泉の袋溜付近(鶴泊地区)>

<本泊地区(釜場周辺)での作業の様子(再現)>

同じ構図で当時の作業の様子をイラストで再現。現在の風景と比べることで、視覚的にもガイドの説明の理解を促進する。



<鶴泊地区ニシン漁当時の様子(再現)>



<網起しの様子(拡大図)>



# 北海道遺産選定記念利尻産業遺産フォーラムの開催

平成30年11月に北海道遺産第3回選定にて「利尻島の漁業遺産群と生活文化」が選定されたことをふまえ、利尻島に残る貴重な地域遺産をどのようにして次世代に伝えていくか。全国的な地域遺産の保存と活用の動向、利尻島における今後の地域遺産を活用したまちづくりについて考える場として「北海道遺産選定記念 利尻産業遺産フォーラム～利尻の宝物を次世代へ～」を開催しました。

○日時：平成31年2月7日（木）16:00～18:00

○場所：利尻富士町総合交流促進施設りぷら（多目的交流室）

○主催：利尻富士町・利尻町



# フェノロジーカレンダー（鬼脇地区）の作成

H28年度に本泊地区で作成した、フェノロジーカレンダーを鬼脇地区でも制作しました。制作にあたっては今回も北海道教育大学函館校の協力により、同大学の学生が現地視察、昔のことをよく知る住民の皆さんへのインタビュー等をもとにしています。フェノロジーカレンダー：地域の自然や文化などの資源をカレンダーの形で一覧できるように整理したもの